

矢作川流域圏懇談会「第8回川部会WG（地先モデル1回）」開催報告

1. 実施概要

(1) 実施概要

○実施日時：平成24年12月14日(木)

9:30～16:30

○開催場所：

【集合場所・現地場所】

岡崎市役所・東岡崎駅

家下川合流点～矢作古川分派点

【現地調査箇所】

・美矢井橋下流

・藤井床固両岸

・乙川

・日名橋下流

・家下川合流点

○参加者：24名（事務局含む）

(2) 内容

【プログラム】

1. 本日の進め方について

2. 午前の現地調査

・美矢井橋下流の現状と課題

・矢作古川分派施設

3. 午後の現地調査

・乙川周辺における活動の現状と課題

・日名橋周辺における活動の現状と課題

・家下川合流点の段差解消

4. 解散



現地調査風景 (1)



現地調査風景 (2)

2. 主な内容

第8回川部会WG（地先モデル1回）では、1日バスツアーにて、矢作川本川（家下川合流点～矢作古川分派点）と乙川の現地調査を行い、活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、情報共有した。WGで話し合われた主な内容は、以下のとおりである。

- 各現地調査箇所では、活動内容や課題について意見交換がなされ、情報共有が進んだ。
- 川中の利用については、市、県、国など管轄が異なることを認識する機会となり、懇談会の場で現状把握から進める必要があることが認識された。
- 分合流地点では、良い環境を残しながら、所定の流量を流す機能を確保しなければならないという難しい問題があることが改めて認識された。
- 人材がどこにいるかのプラットフォームを作るなど、川の様々な問題に直面した際の解決手段を検討する必要があることが認識された。
- マンパワーでどれだけ実際に対応できるか、また、どうやって潜在的なマンパワーを掘り起こすかを考えていく必要があることが認識された。

3. 現地調査概要

(1) 美矢井橋下流

不法投棄の現状について、国土交通省豊橋河川事務所安城出張所の近藤氏より説明を伺った。

【意見交換】（・ 質問、意見 ➤ 回答 ）

- ・ どういう場所へ捨てられるか。
 - 車が止めやすい場所で、様々な粗大ゴミが捨てられる。（事務局）
- ・ どういう対策をしているか。
 - 対策として、看板を立てたり、市が一時的に監視カメラを設置（一週間程度）したりしているが、一時しのぎでしかない。（事務局）
- ・ 注意看板は設置すると、逆にその周りに捨てられたりするのでは。
- ・ パトロールを実施し、時間をずらして夜間も実施することがある。引越しシーズンには、投棄量が少し多くなる。身元のわかるものは、摘発した例はある。（事務局）
- ・ どこに住んでいる人がここへ捨てるか。（内田）
 - 通勤経路などが想定されるが、場所は特定できていない。（事務局）
 - あまり身近では捨てないが、あまり知らない場所にも捨てない。ある程度、その土地を知っている人だと思う。（事務局）



不法投棄の現状説明の様子



不法投棄の状況

カメムシ対策について、国土交通省豊橋河川事務所安城出張所の近藤氏より説明を伺った。

- カメムシによる農作物の被害が発生していたことから、平成19年度から対策を検討し、カメムシの侵入防止対策として、ハーブ植栽を行なうこととした。
- 土を入れかえ、地域協働でハーブ植栽を行なった。ハーブのポットは、県立安城農林高校から提供してもらった。

【意見交換】（・ 質問、意見 ➤ 回答 ）

- ・ 被害を与えているカメムシの種類を把握したほうが良い。一種類ごとに発生源も、害を与える植物も異なる。（内田）
- ・ 問題があったときに、誰に聞くかというデータベースがあるとよい。（鷺見）
 - 生き物に関しては、安城市に西三河生物研究会がある。（内田）
- ・ 今は、カメムシは来るのか。（光岡）
 - ハーブを植栽してから、現在のところ、苦情



カメムシ対策の説明の様子

は聞いていない。(事務局)

- ・ 発生源はどこか。(鷺見)
 - 川表の草むらにはいるが、ハーブは、堤防から農地への横移動を阻止するために作っている。(事務局)
- ・ 専門家のアドバイスはもらったか。(内田)
 - カメムシ対策の事例をいろいろ調べて、北海道でハーブ植栽をして対策している事例があり、現地でヒアリングをするなどして検討した。(事務局)
- ・ カメムシの種類によって、嫌がるものや害を加えるものが異なるので、それらを把握した上で、効果的な対策を考える必要があるのではないか。(内田)
- ・ 一般的に誰に聞くかというネットワークは欲しい。(鷺見)
 - 安城市は、西三河野生生物研究会とあって、その元になるものがあるので、うまく活用できるとよい。(高橋)

(2) 矢作古川分派計画概要

矢作古川分派計画について、国土交通省豊橋河川事務所の山本氏より、説明を伺った。

- 藤井床固は、矢作川本川の河床低下で矢作古川への分派がしにくくなったため、設置されたものである。広田川からの水量が増えるため、矢作川本川からの分派量を減らす計画である。工事実施時期は、広田川の工事完了時と合わせている。
- オリフィス堰で 200 m³/s を流下させる計画で、コンクリート壁より水位が上がる (HWL 以上) と越流し、最大で 400 m³/s 程度を流下する計画である。

【意見交換】 (・ ご意見、提案 ➢ 回答)

- ・ どういう状態を想定したときに、流下量 400m³/s になるか。(鷺見)
 - 堤防満杯時である。(山本)
- ・ 上下流に護岸をはることにしており、生物の水面から陸地への移動など環境への配慮が今後の課題と考えている (事務局)
- ・ 分派施設下流側の整備はどのように考えているか。両岸の植生は豊かでもったいないと感じる。(内田)
 - 基盤に岩のあるところは、極力、瀬淵を残すなどの検討はしている。(事務局)
- ・ 矢作川本川と矢作古川の河床高の関係は、どうなるか。(光岡)
 - 河床は、現在と同様に連続する。(山本)
- ・ 矢作古川下流には、農業施設の堰があり、愛知県で魚道の設置を検討している。将来的には、矢作古川からも遡上、遡下が可能になる。現在は、ここから上流へアユの汲み上げ放流を行っている。(事務局)



矢作古川分派計画の説明の様子



矢作古川分派地点 (藤井床固) の様子

(3) 乙川

菅生川を美しくする会の大島氏より、菅生川を美しくする会の活動と乙川（菅生川）について、説明を伺った。

- 菅生川を美しくする会は、6つの学区の住民で構成されており、乙川に面している三島学区の会長が、本会の会長も務めることになっている。
- 一斉清掃は、9月上旬に実施され、毎年約2000人が参加し、豊橋～数奇屋橋の兩岸の堤防草刈りを行なう。これまで、40年程度継続してきた。実際はセレモニーのようなもので、全体の2/3程度の草を事前に刈っており、残りの1/3を一斉清掃で刈っている。
- 春と秋の年に2回、河川パトロールということでごみ拾いをやっている。川の中には、自転車やタイヤなどが落ちていることもある。集めたごみは、岡崎市が回収してくれる。
- ボランティアで各学区150人程度が参加しており、記念品としてゴミ袋を渡している。
- 愛知県から少しの補助をいただいているが、毎年、記念品と動員にかかる経費でほとんど使い切っている状況である。

【意見交換】（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

- ・ 町内会との連携はどうか。（事務局）
 - ▶ 学区の総代会を中心にやっている。諸団体へは、市役所を通じて（大島）
- ・ 40年川を見つめ、どんな変化があったか。（清水）
 - ▶ 昔は、菅生川沿いにボート屋があり、ボートを浮かべていた。川中に、ヨシがあった。（大島）
- ・ ゴミの量はどうか。（事務局）
 - ▶ 場合によるが、少なくなっている気はする。明神橋下流にゴミを捨てやすい場所がある。車を駐車できないようにして、ゴミの量も減少した。（大島）
- ・ 環境保全については、どのようなことをやっているか（事務局）
 - ▶ 乙川リバーヘッド大作戦といって、森林保全活動の一環で源流の山の間伐材の伐採に参加している。（大島）
- ・ 近年の活動参加状況はどうか？（事務局）
 - ▶ 参加率は、大きくは変化していないと思う。（大島）
- ・ 草刈機は、使っているか。（内田）
 - ▶ 一時期使っていたが、危ないということで、昨年からは使用しないことになった。（大島）
- ・ 流木なども拾うか。また、どのくらい流れてくるか。（事務局）
 - ▶ 流木なども拾っている。最近、減少しているのではないか。（大島）
- ・ 草刈後の回収はどうしているか。（光岡）
 - ▶ 岡崎市のパッカー車が回収してくれる。（大島）
- ・ 戸建てとマンションの住民で、一斉清掃への参加状況はどうか？
 - ▶ 回覧板などで周知はしているが、マンションの方は、少ない。（大島）
- ・ 川の水質など生物相への改善をしてほしいといった要望などはあるか。（事務局）
 - ▶ 市の方で、水質検査はやっており、今のところ、苦情も要望もあまり聞かない。（大島）



菅生川を美しくする会の活動説明の様子

(4) 日名橋下流

水と緑を守る会・岡崎の本多氏より、水と緑を守る会・岡崎の活動について、説明を伺った。

- アウトドアのように、自然に親しみながら活動している。
- なぜゴミを捨てるのかという議論があったが、もう一度、川に目を向けられるよう、自然を守りながら遊歩道や川に触れられるような場を整備できるとよい。
- まちで暮らす人たちなどに対して、観光としての位置づけがあるとよい。

【意見交換】（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

- ・ 環境に関する活動はどのようなことか。（事務局）
 - ▶ 自転車のタイヤにペットボトルをつけ、LEDの照明や電柵などを試している。（本多）
- ・ 川の水を利用したい。（本多）
 - ▶ 4月から、電力関係の水利用については緩和される。（事務局）
 - ▶ 矢作川沿いには、水車の跡地を活用したい。（20～30箇所ある。）（本多）
- ・ 豊田スタジアム前の河川敷で広場が整備されているが、ゴミの状況はどうか。（内田）
 - ▶ 多くの人々が利用するため、ゴミは増えている。不法投棄は減少している感じはある。（豊田市）
- ・ 乙川、伊賀川、矢作川は、まち中を流れるよい場所にある。（本多）
 - ▶ サンアントニオの市街地では、川はゴミを捨てるような場所だった。しかし、川に面した建物を建て直し、表玄関を川に向けて、観光としてもうまくいっている。（黒田）



水と緑を守る会・岡崎の活動説明の様子

家下川を美しくする会の伊奈氏より、家下川を美しくする会の活動状況について説明を伺った。

- 右岸には、遊歩道のような施設がなかったので、総代会からお願いして、遊歩道と広場を設置しようと活動している。最近の活動では、遊歩道を作るために竹を伐採しており、一部の竹は竹チップにして、利用法について検討している。

【意見交換】（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

- ・ アドプト制度を利用して、一定の区間の管理をしてもらっている。（事務局）
- ・ サイクリングロードは、どこが整備しているか？（内田）
 - ▶ 愛知県豊田加茂建設事務所である。（事務局）
 - ▶ 長良川、庄内川の一部、逢妻女川でも整備されている。（事務局）
- ・ サイクリングロードや散策路は、堤内、堤外のどちらにあった方がよいか、また、どういう観点で川の断面を考えればよいか。（鷺見）



サイクリングロードの説明の様子

- 長良川は、堤内側にあるが、あまり利用されていない。サイクリングロードや散策路は、景観がよくないと利用されない状況である。(事務局)
- ・ また、矢作川沿川には、豊田、岡崎などがあり、縦断のつながりの観点もある。(鷺見)
 - 地元の要望で、変わってくるところがある。(事務局)
 - 懇談会では、そういう状況を調整する側面もあるかもしれない。(鷺見)

(5) 家下川合流点

家下川合流点の段差解消について、国土交通省豊橋河川事務所の新高氏より説明を伺った。

- 第6回WG(家下川モデル3回)でいただいた意見も踏まえて、案①(鋼矢板カット+袋詰玉石)、案②(二次製品魚道)、案③(棚田式)の3案の段差解消方法について検討してきた。
- 下流側の水位が変わらないようであれば、案①でも十分であるが、下流側の水位低下の可能性を考えると、案②としてはどうかと考えている。

【意見交換】(・ご意見、提案 ➤ 回答)

- ・ 案①は、藤井床固のようなイメージで、コンクリートで固めないため、上手くいかなくても次の手をうてる。それに対して、案②・案③はコンクリートを打つので、それ以上の改変は難しい。(鷺見)
- ・ 案①のデメリットは何か。(内田)
 - 下流側の水位が下がると、水が袋詰玉石の間をもぐり、魚がのぼれなくなるかもしれない。(事務局)
- ・ 二箇所の段差コントロールの問題がある。今後の順応的管理を考えれば、土嚢や蛇籠程度での抑えがよいのではないか。下流側では、汚水が流入するので、矢作川本川まで流路を分離するなどの対処が必要である。(鷺見)
- ・ 汚水は、浄化槽で浄化されているレベルではないのではないか。(鷺見)
- ・ 実際に測量に入っているなので、その結果も受けて具体的な案を検討したい。(事務局)



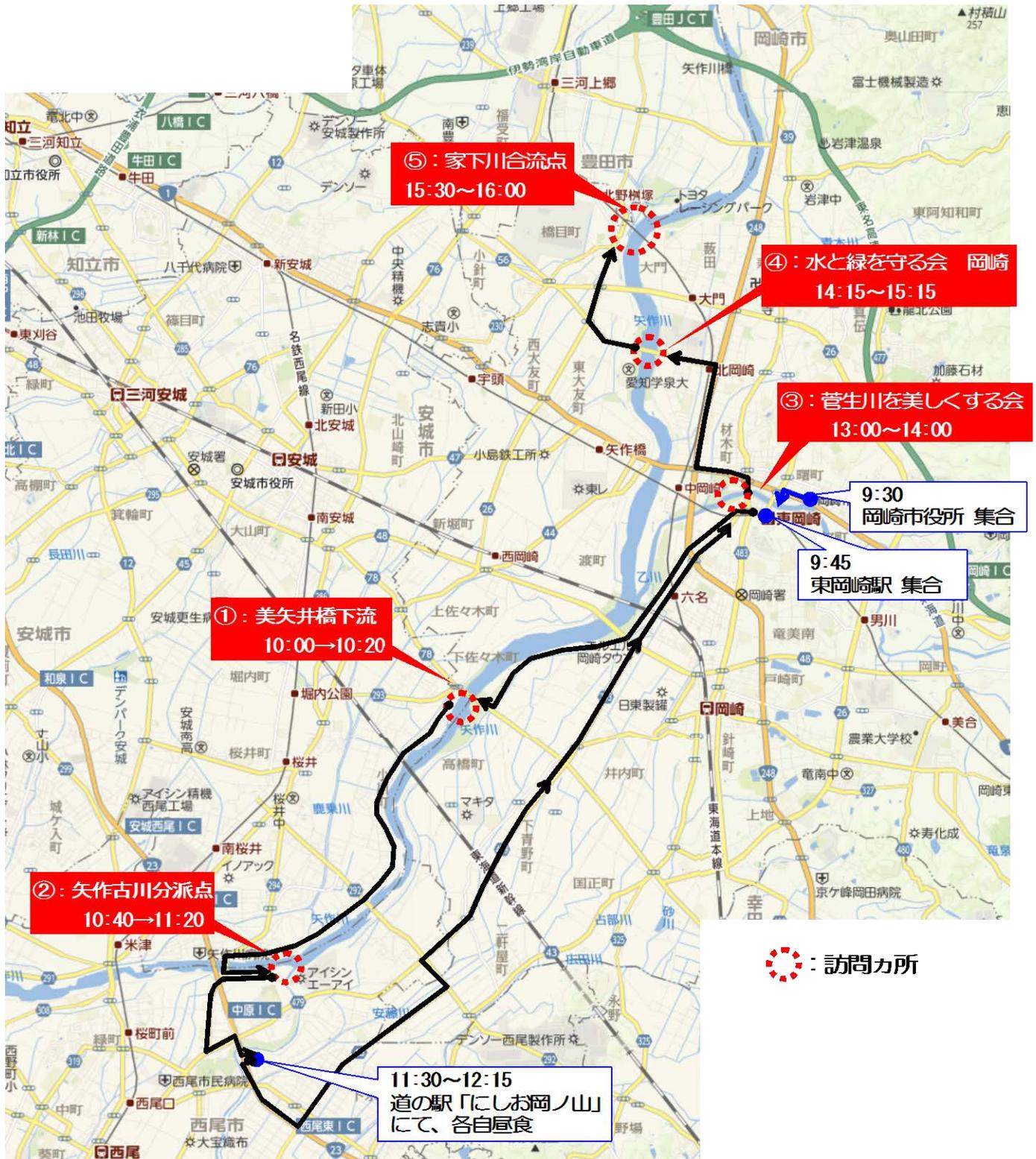
家下川合流点段差の説明の様子



家下川合流点下流の状況確認の様子

以上

【現地調査ルート】



矢作川流域圏懇談会 地域部会 第8回川部会 WG (地先モデル1回)
振り返りアンケートまとめ

■参加してよかったと思うこと

- ・ 現場で、「こうしたらどうだ」「この方が良い」という討論がさらに活発にできると良い。
- ・ 家下川合流点での議論ができると良いサンプルであったと思う。今回のメインではないが。
- ・ 場所ごとの問題と実施されていることよくわかった。
- ・ 実際の現状を見ることで、問題がより具体的に知ることができた。
- ・ 川を考えると、よりよい川づくりを考えると、物理的にも、精神的、心理的にも、人と川の「距離」が、もっともっと近くなければならぬと改めて痛感した。
- ・ 現場をみて廻りの方に質問すると的確な答えが返ってくるので、大変ありがたい。
- ・ 現場を見るのはためになる。
- ・ 河川敷の利用について、地元、市、管理者の連絡が大切さについて理解した。
- ・ 矢作川上流の課題について勉強できたこと。
- ・ 市民団体さんの意見、特に市外の団体さんの意見を聞いたこと。
- ・ 川と人の関わりを深めることが大切だということが分かった。
- ・ 現地を見ながら問題点を話し合うことで、より具体的に認識できた。
- ・ 私たちの言う「地域」の領域に焦点を当て、議論ができたこと。
- ・ 知らなかった現場をみれた。

■よくなかったと思うこと

- ・ 現場のビデオ等を有効に活用して会議が進行されるとありがたい。
- ・ 毎回参加できるわけではないので、過去の資料を参照しようとしてもインターネットでは、最初のところのものしか入っていないこと。
- ・ 地先の課題モデルという用語は一般的な用語でしょうか。
- ・ 川がかかえるそれぞれの場所の問題という意味でしょうか。
- ・ ポピュラーな表現でパッとわかる用語はないのでしょうか。
- ・ もっと早くやるべきだった。
- ・ 家下川への排水状況（岡崎市側で排水、雑排水の発生が豊田市エリア）
- ・ 家下川合流の下水、汚れた水の流入はなんとかならないのかと強く思いました。
- ・ 自分が勉強不足なこともあるが、河川工事など専門的な話が分かりにくかった。
- ・ 矢作川は中流～下流まで砂河川で単調な風景となっている。歩くには疲れる河川。

■地先モデルで、関心を持った課題は何ですか。

- ・ 家下川の魚道の石積みよかった。
- ・ 古川の連結点での問題。
- ・ 河川敷に車が入れないようにするべきか、否か。
- ・ 役所＝河川管理者、車、人をしめ出すか否か。
- ・ 地元活動との協働が出来る項目は何か。

- ・ 美矢井橋下流、ゴミの不法投棄
- ・ 遊歩道（自転車道含む）が、ゴミの問題も解決できるのではと思いました。
- ・ 河辺の遊歩道整備。
- ・ 遊歩道、自転車道の効用について。
- ・ 矢作川に多くの人に関わっていること。地先の課題が共有されているか分からないが、余り知られていないらしい事が課題と思う。

【考えられる解決策】

- ・ 整備に金をかけるか。→市民団体、漁協（役所から、どのような援助を受けているか。）→一般市民（関心は高いがマナーは良いか。）
上の3者の関係が各地先でいろいろなパターンがある。それらを比較してうまくいきそうなパターンの組み合わせを見つける。
- ・ 他の現場を見に行った時にも話題に上がったように、人々の目を川に向けることが大切である。
- ・ 難しいことだと思うが地元のニーズと、親水性に効果的な整備をするために十分協議、検討を行っていく。

■今後、地先モデルをどのように取り組みたいか。

- ・ 家下川合流点での議論ができると良いサンプルであったと思う。まずは、こういう形ですすめられると良い。
- ・ 他の会の参考にして遊歩道と広場作りしたい。
- ・ 一定の距離を保ちつつ、多様な生きものたちと親しくなること、川を遊ぶこと、川を楽しむこと、そして川に敬意をはからうこと。
- ・ 情報提供に努めたい。
- ・ 川は、地域に密着したものである。より多くの人意見を参考に河川整備を行う必要がある。そのためには、整備計画をしっかりとてて事業を進める必要がある。
- ・ 環境と調和した遊歩道のあり方や、住民と行政による管理手法。
- ・ 行政（国、県、市町村）の連携、情報共有をまず考えていきたい。